

血液腫瘍患者における発熱性好中球減少症のための レボフロキサシンへの耐性菌の増加についての検討

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。このような研究は、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得るかわりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1. 研究の対象

2017年1月から2017年12月までに、湘南鎌倉総合病院・血液内科入院中に発熱性好中球減少症を来し、血液培養の結果が陽性化した患者さま。

2. 研究目的・方法

レボフロキサシン耐性菌の頻度を明らかにすること、及びレボフロキサシンに耐性になった菌が β ラクタムへの感受性が残っていることを確認する事により、耐性菌を増やさないためにはどうするべきかを検討する事が目的です。該当する患者さまの下記情報を診療録より取得します。

研究実施期間：施設院長承認後から2018年12月まで。

3. 情報の利用拒否

情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で、患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。

4. 研究に用いる情報の種類

年齢、性別、疾患名、陽性菌名、レボフロキサシンの内服実施中か否か、陽性菌(レボフロキサシン耐性)の有無、 β ラクタム系抗菌薬耐性の有無 等

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

湘南鎌倉総合病院・血液内科 佐藤 淑
〒247-0072 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1
TEL:0467-46-1717

研究責任者：

湘南鎌倉総合病院・血液内科・部長 玉井 洋太郎

(2018年11月14日作成)